拾子集

秋

へ利 5
1969
3

捨子集巻三目録

秋部

初秋　一葉 付柳桐
七夕　秋蟬 付秋螢
秋扇　稲妻
盆詠　踊
相撲　文月
露　霧

特
へ 5
1969
3

朝皃
薄
女郎花
虫
鴫
雁
月
司召

荻 付萩
桔梗
秋草
色鳥
鶉
鹿
駒迎
葛 付蔦

砧
菊
木實
雜秋 付暮秋

秋田
紅葉 付名木紅葉 紅葉鮒
木子

捨子集巻第三

初秋

吹風はふきて志らせやはや秋　知説

かくれ蓑きても秋やしるき風　伊丹氏 信徳

葉乃内はあかれりと野の風乃口　江戸赤坂住 水元

きのふ我くいやく為りけはや秋　三川吉田 愚侍

納目は礼乃文月や千秋楽　姫路住 三吉

かゝ風も上絹吹初る楚秋かな　凡舩子 定重

一葉 柳 桐

また袖さく一桐つゆに庭箒　姫路村山氏 時雨

蔵とならひ桐挿かへ起一葉かな　江戸西田氏 泰次

猫柳落葉かくや狗たく人　紀州長浮 一入子

ちる度に桐石角むむ井筒かな　姫路 元利

秋風に蔵つゝても葉かへ舩　伊予松山 一景

柳ちるやたゝくる以氷さ者　備州宮栗 正林

囲碁なりて一葉や風のおいおとし　肥前伊万 宗昌

風干梢ちりハ雪や観世音　慈敬

葉乃あるあひとはとゆる梧桐かな　姫路住 利重

一葉やちる寸舩景山出落し　因幡 不及

ちるみや一葉秋影の淺入　南都 歙柳

来風秋の備舩なる一葉かな　凡舩子 定重

七夕

かくさき橋本ちりし天の川　信徳

天の川星ハ人よりくらへて逢夜かな　小山氏　重尚

白しらの女中なるらし女七夕　大坂　政昌

川を越てあすハたのみの契かな　堂州中村　恭遠

藍染に星にかす絹や恋わすれ　大坂　友之

七夕は中やひとしおうらやまし　大坂　如圭

七夕を祈て梶乃葉に一首かな　伏見　友世

星やあふ雨もふらぬも思ひ草　姫路　一彳

雨ならハ気の毒そ笹の末に七夕　塚本　後盈

と宵にうれしかるらん気の毒な女　備前片上永井氏　如重

七夕は女と男と申し起夜かな　阿形氏　直入

さゝけのいとちや申し織女七夕　上有子　政時

七夕の天乃清濁のうへの川星　仲之

七夕や雲の上なる機織女　備州白栗　當栄

七夕やあふ夜ハ他星の縁の色　伊予松山　良信

其ゆびても牛牽たすれおもて七夕　江戸　林康

五西将よあハるんとすや二星　伏見住　重尚

われらもちハところのあふつらの天の川　金谷氏　友光

大き地姫宮や一盃二川ぼし　凪紅子　定重

物そおも雲みたるてみためぬとし星　倖心子　梅盛

秋蟬　付螢

歌の琴のともあれらがら秋の蟬　江戸住　恭次

空蟬ハ秋乃季縁やうすころも　濃州上田氏　柔治

何と秋とせんかといきや蟬の声　江戸大坪氏　高輔

秋ハうせて尻たらいる螢の火　石橋氏　重知

風のひく蠟燭ハ秋の螢乃火　三川土呂田　愚侍

行集ホいゑの前の秋の蟬　鳳松子　定重

秋扇

扇屋ハ秋ニもおちね家職也　三井氏　近次

扇歪ハあいさぜんくすかわ也　年吉

稲妻

稲妻ハひいかうそ絶所ちまちかれ　草津　重道

稲妻ハ心空ニや忽や世回　濃州　慶哉

人れとて光ゑハいるか毎夜也　姫路　秀昌

小町田小百韻も通へ猶此度　民弘子　定重

盆詠

ちやうちんは灯籠や寺の玉祭　江戸田村氏　不卜

去年乃夢今宵は宿の炒花や火　濃州住　塵哉

なき人我おもひやすゝん玉まつり　とも日　摂州茨木　灸的

佛も我も旅の色の名も玉まつり　小山氏　重尚

盂蘭盆や手向乃水はうき者　姫路　三吉

水むくる聖霊や無縁法くいあ　伊予松山　一景

送り火とあるハさよひの入日かな　植松氏　重次

おもふ寺先立原茶の湯や接待　草津　重道

昂ふや家はんあうち玉まつり　同　姫路　捧字

緒くつ火や待くぬきとおね玉祭　山口氏　栄之

かなひ世はいにしへ歌ひ社玉まつり　勢州津住　直政

蚤や蚊に身をくれぬるも施餓鬼　松本氏　光之

ごれ寺も一旗たくし施餓鬼なる　伊予松山　宗利

かまほしる施主之や生見玉たすね　加州住　種次

それと先わ客ハいまためり玉祭　三井氏　近次

大の字ハ是迄と火ぼうて
一ハきえて人おくり火ハ文字から　　素及

一切衆生まつるや悉有仏精霊　　播州宍粟　正林

小山が法の送火から申まで
おくり火ハ妙音便乃志るべかな　　阿形氏　直入

なき玉ハみるとしまつるやうかむ米　　姫路　政次

甥もめいも姨もお地蔵みまつれ　　鳳弘子　定重

三途川ヲとんでゆくとも玉祭　　侘心子　梅盛

踊

三国よりまや四国乃土佐踊　　宗有

一宗ならふ題目躍多哉　　坂本住　俊盈

あつさねきハ見たいくや土佐踊　　江州中村　栄遠

かさひろ段とこすハ差損踊かれ　　播州宍粟　道益

ふりや志やらり袖ふりかへす伊勢踊　　江戸林氏　重信

踊子ハかり笠たいこやしころうち　　和州今井　道信

志やみせんに二両もみえんぶ土佐踊　　田氏　成遠

手子振上るまくや伊勢踊　大坂天満 正俊

起請かきし正存り胸り土佐おとり　播州若狭 貞継

冬ハ毬も頭をもふれし烏帽子紐緒　三井氏 近次

ゑいとゑいよおと縁く相申し眠かゝ　阿形氏 直余

胸乃踊たぬ世のと皆と被ぞう　尾州住 方重

冬柏子やよく何の山伊勢踊　大坂住 友清

相撲

それ球とるすまひやいろ雪こりし　姫路住 一千

とれて歯並すまふ氏をり乃や膝車　山崎住 上琴

いきうるまて又のよいやく負お撲　姫路 捧心子

足ハ文たますれもある相撲取れ　勢州松坂 三信

追てゆくや手立させんとよく力すまひ　江戸住井氏 不印

喉氣ありてたふ氣や乃世紀れ撲　草津住 重道

相撲取の玉子の咒きちろうこぶ　河州住 頼置

負けれたく塵をそひ福わた撲ぶら　大坂住 貞友

勝かかる要かつの曲すまひ　肥後住 友閑

まぶ向くみるやきよみの関すまひ　江戸西邑氏 森次

おしむやいく年や此海の世きお撲　大坂　友之

足ふみや地力絶ゆるすまひ　江戸大坪氏　高輔

諸ともにあはれとなけまけすまひ　松坂田中氏　是望

備おもの名やこ我正月たちすまひ　播州兵庫　重吉

そろ出ぬや長刀だをしお撲とり　瀧氏　勝成

猿猴のまねとる拍や月すまひ　伊予松山　一景

腰もとにかする風お撲のまつれ　三井氏　近次

以来くまう色の角しすまひかな　大坂住　清次

名家の勇すまひ世紀三場中かな　河州坂本　覚壽

一むま足やと叫くなけ勇手勝お撲　福井氏　宗次

以てと行ふお撲もうそあれ行るかな　凡乙子　定重

文月

遂の葉にいひおたそらる文月かな　辻氏　忠勝

文月よまつる世に和や昔の来　江戸中山氏　義徹

君の代や太平御繪文月哉　肥前住　如自

あきれ言や寺社門前文月哉　姫路住　一千

徳よ生れあんとの判り文月哉　備前井上氏　常忠

文月は篇圖やしれぬ文字ゝゝ　肥後熊本　真昭

晴て今宵雲や文月比叡免状　姫路　如柳

ゑり揚る文月やいくけ江や　小山氏　重尚

声てめいひの名の三ヶ廊や文月哉　坂本住　俊盈

抜原の影や呼けさ文月哉　植松氏　重次

何としく日付は見えぬ文月哉　三州吉田住　愚侍

風や数乃虫屋今掛る文月哉　山嵜住　卜琴

見かゝねも汗は絶ゆる文月ゝ　窪氏　行貞

文月の行かどろ水や字ゝむすし　伏見住　重尚

長き夜はよく封し書ぬ文月ゝ　凡孤子　定重

露

ゑ露緑は日比同じよ緑き消ぬ　三州吉田住　愚侍

園の夜試露を筵秋乃続かゝ　濃州大垣住　常光

自乃友露野お出や玉かまれ　壱州白次放夜云　株坂

哭ゝ宮乃破出よ雨やよゑの露　嵯峨川端住　安信

草と地の加ゝ生ち廊や露の玉　津田氏　政昶

武者くと葉まとく露や小玉薫　和州　勝秀

河竹や水鉄炮乃つ援私たま　伊予松山　良信

諸光と云人十三廻忌追善に

十とせ河まわりも残ころとせそ露涙　野口氏　頼永

霞

立霞は香盤るれや箱根山　摂列西宮　正則

霞は海乃青のわるし山の苔　姫路飯塚氏　貞言

胸乃霞は海にとこて氣海に　草津住　重道

霞の海も山と画んする嵐哉　仲之

康浅追猟師といふん霞乃海　奥州會津　智鏡

商乃露い西霧ヤ袂乃京に　阿形氏　直入

山と海の霞方量も汀の哉　播州宍粟　玄甫

霞西ま広けかゝ笠や傍か哉　南都　宗栄

まちち子袖の浪るのや霧海　霞州津　直政

立かゝり入ろそ風乃霞かる哉　貞弘子　定重

朝皃　付木槿

朝皃い朝移する身の花さかり　草津　重道

鶏頭の花乃下露を根垂かな　江戸内松子　拙口

絹亂ハ見てはり暁の花よかな　大坂　蒲永

四ツ時に咲絹良を見よのかな　加列住　種式

露の玉ハ鞠ほとちるすむしけむ　南部住　政令

萩　付萩

しててやきのこ世ハ乃風と萩かな　江戸林氏　重信

萩乃露や野の露るし何と波を　播州完栗　玄甫

おきまる萩と簾よハまた帰れ　駿河府中　為次

玉露に萩まとハせる露れ　江戸田村氏　不卜

文月に咲ゑゆあや文見草　新山氏　益英

廻文

去花や戸ても萩花をよれ　肥前佐賀　咸亮

萩をき風露ハ下和のあをかな　辻氏　忠直

嘯簾の音ハ月てしてや萩の花　草津　重道

わきし存や蛬の糸萩弱つれき　凡如子　定重

薄

一 尾ふまひく庭の千代や袖鶴　尾州　之也

峯や岩松をしほりに咲る岩尾ふ　和州ヒ西　正盛

露ちりて虫や寸紀ちりす紀ふ　肥前住　當石

桔梗

一 花乃なかはともにも角ふ桔梗哉　姫路　一千

こね人よいそく皿とせん桔梗の花　坂本　後盈

一 季よたのむふ盃帷子や桔梗染　南都住久伯　及任

女郎花

いろ生秋にあひては果し女郎花　江戸西臣　崇次

浪かとこわちらるや那見ふめくらふ　尾州名古屋　重貞

みさりわくる底女郎花や出る人　大坂住　本也

花莚風よそえる人しとねかな　肥後坂本同　金門

露はおもし虫とまる花や上臈花　凡孤子　定重

鶴草社おひぬといふん女郎花　江戸篠山氏　笑言

秋草

毎ことしらぬく咲ぬるは諸法実草　大坂吉田氏　友清

こちや紫蘭爰山吹や花と風　姫路　棒心子

咲ても紀日に頁ぬすれやお撲草　奥列　智鏡

花折ぬけふる事なく丁子草　江戸山手　禾笑斬

毎年咲花やひるがほ弱けふ紀　草津　重道

風のまてたをすは芦北穂に花　凡舡子　定重

毎風の跳とのれしもくらんもん草　伯揆三示　施賢

けふわにはさぬ散るもね花野哉　大坂住　貞富

立添花咲かるゝ一双や屏風草　内海氏　安重

短冊乃あかまる花や屏風草　一村氏　良三

屏風草に跳はひかるこ楼びも　大坂渓田　春倫

鶉来なや案よもとほし折敷草　加州金沢　因元

切くせく根よりかくまれ踊られ　姫路玉岩　蹊次

猫鉢や苗に苅萱の開道具　河内春日田中住　弘重

すゑの末落てもとの手ぶり　墨本氏　学松

廻文

野辺や苅の薪と守たるか辺や野　江戸北田大学伝　秀長

花の風はよろしまとき世よお撲草　肥後交雨　金門

ゐる頃の比もられよ咲ぬ句はなれけり　伏見 友世

おん色より花も開帯を玉司苑　和州 藤秀

花はさふ風とはかたやこ千わ草　大坂柏氏 幸延

芭蕉葉のよ縁とも落る女郎花　大坂住 宗清

すまふには猫まてひの秋の暮　凡船子 定重

虫

声もけふの啼はきわくきり〳〵す　伊賀国住浅井氏 未分

あけくれ書きやまきり〳〵す　三川吉田 愚侍

啼やむは声成先きれし。筆つ虫　福井氏 宗次

地乃虫は地声乃うき調子哉　南部住 友勝

幾秋も鳴松虫ぞ十のこゑ　角寺氏 玄雪

玉とおく露をこえへのむしおの毛　山村氏 忠辰

夜もすくら啼は雑く虫の音哉　小山氏 重尚

灯に来て啼虫や火と友る　紀州熊野 一入子

孫あるねは草臥もの乃虫成声　嘉隆

草村にちんちろりんや虫のこゑ　懐恵歌り 鄙雲

色鳥

君のあはれみて法くおらん小鳥網　勢州松坂　是望

山雀も腹鳴々乃衣食かな　三井氏　近次

糸あふれ鳴我く目とめよ鵙の声　三川吉田　愚侍

七川八川吉左山から社論ぬけり　大坂住　宗清

灸して渡る山里（サニリ）乃四十から　播州宍粟　正林

四十から隠居の籠乃貞住居　杜松氏　重次

是ハ敵の棲媼よわれ小鷹かな　新山氏　益次

目乃前此地獄の松より鵙の声　勢州坂江氏　清政

山越や小鳥も弱乃まこれ猶　江戸居村　不卜

庵々鳴るも世とや目白と押こそら　伊豆国吉奈　喜ね

鵙の声我か意見てとまれをるかな　卜有子　政時

洞小かくまれつ鵙さめや鳥此　小村氏　正則

火とさる鳥見へぬれ方やまる篝　凡松子　定重

鴫

鴫洞小かくれて心ぬハ猟師かな　田中氏　正元

らんともまたながきあれや鴫の声　肥前　如自

ひよ〱鴫ハ鳥の用心斯る風かな　風取子　定重

鶉

鶉まて心気かはすや羽虫かな　坂本住　俊盛

あのせんかちに出やそ彩かれ鶉　三川吉田　愚侍

鷹にあふてあそれうつかり鶉かな　姫路国分寺　政次

友見て帰やうつらわれおもふかな　山口氏　栄之

鴈

天津雁や久かたの鳴とメの字なり　姫路国府　政次

渡かゞくや雁ひきたちとぶ琴柱の糸　南部井原氏　龍辰

とうとなるや乙字にみゆる天津雁　膳所住　善良

網てとる糸ゑんちん雁字かな　加州金沢　因元

数をみる雁汰や夕紅葉文　播州姫路　末勝

雁の飛ハ石なごもとぶ礫手取　江戸大坪氏　高埔

石すりの関の雨よ飛白雁字　矢倚氏　末次

うけたん跡筆墨なれや唐文字　辻氏　忠直

筆跡の一字略する硯かな　姫路住　秀昌

筆墨を渡る唐字や雨の跡　江戸西翠氏　泰次

唐を射る矢筋や流れ一文字　植松氏　重次

徊よかる風唐や流るから文字なく　鳳狐子　定重

月よ拾ふ筆も新流す唐詩かな　伏見玉置氏　重尚

簾

簾ごし書なし身哉升としまみけ　長谷川氏　一元　田和

まさす矢ハおちて簾のあつちかな　三川吉田　愚侍

翁にとり簾まう読まとてまきんか　伊予松山　幸重

せいたしかんしまて田氏簾かな　伏見玉置氏　重尚

書あこふるこゝ絵そ夢の海から簾　江戸　長尚

簾越わるる種とかへよせわ鳴るかな　南都住　素文

見紫て簾の屏風とて

秋の神や白川も簾る屏風の絵　厚母氏　宗沢

あとにおの簾のわくきさそ春帖　秋芳氏　貞就

いつく鳴のわきハ海路や簾の声　福井氏　宗次

簾から[illegible]人形[illegible]こそ　凡紘子 定重

月

月はの雲名から大出来と宵に　大坂石津氏 器上

三界に限なき月や去当恵　松本氏 光之

月乃都是や見ね京猶かな　姫路 一イ

乃ふきて秋の西北つゝするの月に　凡紘子 定重

照月も玄輪の時重ハと宵に　濃州 一歩

名月を宵明乃月歟月夜かな　大坂住楳並氏 貞富

西郊の夕暮秋室の月乃影　備前 時明

弓なりの月ハ障子乃影かな　懐恵 離雲

月弓乃矢ともかのはしらよ哉　肥前高山氏 笑自

と絶ふのゝ見て八闇ちかゝふの月　星 播州宍粟 玄甫

一向宗道場にて

月と三代る一向宗も月見かな　大坂住若林氏 良久

月とても雲に月の佛によひ　南都住 友勝

笠残わけ見かぬ本に波戸の月　加州金沢 因元

雲と月の出入をとる嵐かな　備後三原 柳元

誰のみかとひとふ見へハせぬる月の　三川吉田 可尋

面影とハ花と月まハふりくし　泉州堺住 以專

上京とい子色も月孫都一に　京松氏 龍翔

月と白とかくぞんちまや根来山　紀州中村氏 兼遠

寺に数あて堂越とはすや月如弓　播州宍粟 正林

行月も月まてしと見へぬる縁孔　勢州松坂 弥笑

秋も秋ここ芋とみん月孫君　大坂桃原氏 是等

園小こんふそうして桶乃なれ月　備後三原 意渋

晴天乃あまくもせねやる初月　勢州山田従五位 弘次

見承人をそらや多かかる月如弓　勢州松坂江眼竺 永学

汐こそハ月とふまき合たやたら月夜　金谷氏 友光

面影乃月白や水乃すど松とと　三井氏 近次

月ハ八月月只今ぞ奇孫孫に　桂松氏 重次

鱼外我もかちらんか孫屋如月　播州赤穂 長矩

雲ハ脇への当にそそまゆ吾月如弓　草庵 重遠

身のうけそ汐てもかやや月如毎　摂州今津 不必要

瓶乃外ハいつくちらまし見の京　吉見氏 忠次

月も化を芋独偲の新清昨　泉州一 慶哉

落る松ハ風乃手鞠や波乃月　座列高山住　可庵

月乃為尓の世をかくる口乃発句哉　伏上一　友世

村うとや恩寵外法のうつら月　勢州松坂　三信

世をすてゝ月残りニつしき妻雲も　窪氏　行貞

新しき所もる家桜ちらしおとし世月の名　田中氏　正元

半月や天の川原乃扇図　長谷川氏　一元

西ふえて櫓かいやあまね月舩　上有子　政時

名月と云ふごみやくる雲の月　平吉

月ハ天地かい百ちらぬひよたん派　肥前佐賀　咸亮

月見すて袮とりかけ出湯や汲るゝ水の月　勢州松坂　三寛子

曇る西や詮義待く月の友　播州宍粟　道益

人あつめ亡首の月や飲す酒桜　江戸中山氏　義徹

十三夜待よ山伏の家まて

心すゝ晴しるや九回きの窓の月　伊予松山　一景

二ヶ月のうつさハ水の字なまり派　進友氏　世耻

与州松山の津まて

六十や与州まハまハ山乃月　伊予松山　宗利

月弓の弦張うちや段義の緩　姫路住　政次

すむ月ハ名のしずと鳥も志らぬ哉　山海氏　安重

膝方に月まつころや雲乃おし　伊勢氏　信徳

宵ころもさんかうなりし月夜　佐々木氏　道繁

悟道義明月小すむや人こゝろ　進藤氏　世耶

月見んや小前かさく成田子満　廣瀬氏　宗勝

是ぞ哥乃作の物ぞかり月に級　小山氏　重尚

山乃手小夜のなくいろや子持月　福井氏　宗次

月さんと松上鹿井乃清水哉　江戸上野　桃友

かゝるむける月ハひかりこそ志へんかな　江戸　林康

のむ酒や数店くみ由る秋乃月　摂州松坂　是望

恋けるの光かりやみ鍾月夜　大坂吉田氏　友清

天乃川のふかさしらるゝ月夜哉　大坂武教　正次

兵庫まで

月清ハ浄海下界乃添手那　肥前住　幸成

月やとも宵成ハうつるたる船の内　江戸　紫庵

月ころ小雲ハてんがうれに探られ　草津船橋氏　正盛

あまり雲のかさなれと月や宵と成　石橋氏　重知

月の嵐引こそ山就究ましかれ　殿村氏　敬徳

月ハ何とたとへん海乃玉みがき　尾州山崎氏 清親

星ハ是月のこぼれの木の実かな　阿部氏 直氽

盃の中にうかませて月見かな　岡松氏 慶順

　子供儲ある人の許まで

よろこびハ絶てたいまつ子持月　山下氏 竹葉

笑とも孫とすきよ紀念窓の月　摂屋 元重

孫に紀人も月かくてみるや今宵月　備中岡山 我誰

何うわあハ鴻乃餌の三ケの月　技氏 友廣

たらや忠川讃岐まで百氏の月　濃州大垣 木端

晴それ給ひ今や松子花月と雲　大坂住 宗清

月かけも雲出来ぬ物成衣かな　江戸林氏 重信

むこ山の月そ嵐の婦入かな　伊東氏 良里

手のひらも方丈者とるや国月　清水氏息女子 正勝

曇るとや松ハ去るとも月の影　大坂住 清次

水清の海や不ちこの月の影　一村氏 良三

更て月に威や眼乃すさまじさ　大坂平岡氏 範子

哥ハ清き孫ハ浮き孫を月こそ　三河岡崎住 冊首

みさびにも月ぞ浮ぶすむ江かな　肥後熊本 惟庸

行もあれ如き出そうや月乃舟　小勝氏 康二

三ケ月やかゝたをされも和哥家　浪華住 子愁

天下一三輪となる本や月乃かげ　下浪華 正金

本地大せいしまそゝ入月外雲　岩服門弟 正芳

小川にや落入月の新法師　寺瓦氏 忠俊

月を水に浮世にすれる浪の上　中山氏 勿言

そうしてねれやよみて月の一雲　坂本門弟 俊盈

照月は湖まん丸りきえよし　濱野氏 宗勝

涸かれて月かゝるや鰯雲　吉田氏 以三

忽ん乃そしまたし入月や座形舟　大坂 嘉陰

水桶や井筒より出る月の影　岩崎氏 矩重

月のかゝる田舎て三盛や代々男　下浪華 治定

雲よりは月にまくさや嵐乃山　下浪華 囲生

月の生ま飛入早や每座とる　下多羽 台澄

月乃くまは水にうつせるすゝき哉　肥前住 如友

絵にかくは杉子室本そ三ケ月　紀州 俊一

廻文

月に又やうきくや玉弁底　讃州丸亀住 兼豊

七月日ハおもし不加へて七月哉　南部勝井氏　友勝

曇るな夜ハ月の私を也日より絹　大坂武藤氏　正次

月の弓肩にそふる夜寒かな　懐恵新　離雲

三井寺閼伽井の水ハ色そて

盃や閼伽井増と三井の月見かな　草津　重道

高野山一見の時

山頭よ各輪の月をも高野かれ　姫路　一千

山乃端ハそれともわかぬ底や子持月　風狂子　定重

本尊にも新らしき月や金る代　播州赤穂　尚昌

露に風八月光地に落て拂ふかな　摂州完粟　正林

暁秋に扇をさして明石の月見かな　伊予住　実舟

おもしろハたゞしも生る時や三ケの月　菊地氏　貞盛

耳かきの有かあらためて三ケの月　江戸大坪　高輔

あき人をさ栗毬らなふ乃月見かな　江戸住佐橋氏　不至

かゝる月や天目山乃盃あり世　伊賀上野　政好

三ケ月や消ゆるも月ハ雲の行　紀州　民吉

出るときそやともみぬ月の舟　伏見　南枝

江州片田の浦にて

星あらて河瀬の月や舩よせん　堺住小寺　忠也

雲此神のそれ〳〵や月は嵐也　江戸住　長時

かく斗経かる紀月の丸さかな　堺浅不氏　一圓

雲去よ只月まなるこそ隠しかな　下嵯峨　國生

くらしかね月ぞこえやみてきぬ拙　大坂何氏　利春

餅月やなない読あれて出生　松本氏　光之

名ハ晴て又良里の宵や毒宵　窪氏　行貞

雨すなら大さのて嗜此月の登　南都山川氏　宜易

三ヶ月ハ嵐の喰しおりかな　南都住山中氏　秋之

今痩心や明鏡のうて名の月かな　江戸住石野氏　愚心

晴ろくのけてやら心名此月ま雲　加列住　種式

翻のすゑ為海てみたら丸名月　祐由

又と出る今とハ太あれる月　大坂住　貞富

此生世乃月やころく此十八夜　備前片上　如重

人これ海ひとりて海此月見かな　大坂住　清之

生れてる哉雲の為のえる秋の月　平吉

此の月めいとうこちるすゑの月　原田氏　政時

嵯峨紅川もてゆく
月見せんおすかおてひ兆丸古町　懐恵軒　離雲
酒たうて真の醒たる月見んら　高松氏　龍翔
まうてとは雲あれいろうつ此月　嵯峨住　正令

寄波月
月なりす浪の花の桂乃木　佐心子　梅盛

寄月夢
見えすれた昔語の月の夢　同
こひき抱いは天八行のこゝら月　同

菊平むらひく
ふふと俺菊のらゝ日れ月子菊　同

駒迎
いさ碑乃此死ね中駒と迎酒　大坂寺嵐　範子
むさしおいは愚癡むちの屋駒迎　和州大輪田　照龍

司召
京は照ますべてもみなや司め　播州佐戸　栄武

廻文

よ紀つきたまへ歌ハ文字の月と　大坂石津氏 器上

今日やせん禁中旬乃司召　風舩子 定重

葛　付蔦

三吉野や雪に縁あるや葛團子　大津追分 不埀

鞠の庭や風吹うしろに葛袴　勢州松坂 交友

墾まきに葛やたの門と西坊ひ　肥後熊本 親宜

雪露ハ手すたまかりや吉野山　京田氏 政時

露をも月く山縁やある蔦かつら　梅盛

老のさいえいかにもとかく

老の跡くふおやれかゝ老松ふ蔦　同

礎

その廣ハ拍子ふおまるきねかな　江戸大坪氏 高輔

とくひまて人もうられ由礎かれ　堺住 治之

うりきねと上手や名ハ鉄もねきつむな　大坂住 茂昌

餘念なく跡ころひとうりきわくかな　大坂武茂 正次

本征鼓ハ法のこゑなれ碪かな　勢州松坂　加友

ひとりうちきぬる夜や友をこひ衣　因州鳥取住　致成

うちてはまるやうに碪や黒がねん　福井氏　宗次

夜ふけてハかしらもおもし碪かな　京田氏　政時

衣の玉もしきれて音ハ碪かな　挂松氏　重次

書物あてうちはこ絃もれぬうし　伊予小松　可夕

秋田

孕む稲もしなへし秋風にあたり月　坂本住川中氏　俊盈

以つき粉ひとれ田におち稲は虫　姫路小川　元武

どの国も山田をて秋田坂田かな　江戸西照氏　粂次

とりとめ有とも世はまきとり世は稲葉し　草津住　重道

俗哉ゑく田面は米やて大豊う　肥後熊本　貞由

四菩薩とゆうんは田になりぬるし　江戸無村　不卜

夜ふけて地の日まさるやかりか田　肥後菅瀬氏　宣就

月ふるかけと稲葉まんそろけ秋の風　植松氏　重次

虫の鳴く稲やひてられ世なさり　越前長崎住　一入

孕む稲の穂ハあらたしくおるるかな　凡秋子　定重

菊

垂簾に庭や雲井の菊目石　伊勢山田 慈空

こ川流に帯や飛ならん九曜の星見菊　淀厚子母氏 宗沢

稲なくて人の目にあまり咲きくれ　佐々木氏 道繁

黄我菊も咲き望するや花と種　加州金沢 因元

花山けの水中にいさや菊羽草　大坂土田 友清

瘦ぬるハ作り病や菊はかけ　江戸 林康

黄氣菊やも種あれハ咲くれし　一村氏 良三

竹のねの巻や菊にこそ流も色の石垣　大坂石津 吅品上

武庵野て野見へくおちへ菊の酒　江戸中山 義徹

秋は未開くやお鷹子中草　宮崎氏 重利

菊咲さして金目要と諸如かれ　播州飾方 意順

七賢への楽と為吞と菊は酒　武州住山野氏 未及

誰の渭しらんしもしくや菊の花　肥後熊本 元昌

見ぬ世ぬ人や姉かしぬる菊の潤　貝翫子 定重

花も風に吹されぬ菊の酒宴かな　俺山子 梅盛

紅葉　付名木紅葉　紅葉鮒

立のこされ貧の盗人にいとみち　内海氏不求子　安重

風やそめるうす紅晴てこい紅葉　懐急軒　離雲

呉山西阿乃おごる

壺山もえてこく阿乃紀紅葉かれ　尾形子　定重

山の洞乃ふりてや名をそこかくあ　伊友キ　信徳

三の一菊也川ともみえ也こゝに紅葉　浮神田　蝶々子

心乃聡秋名あるをすや志る紅葉　辻氏　忠直

吹こぼれ紅葉は高雄あらし山　秋扇子　追翔

秋来てや春んけいは秋漆の木　大坂住　昌

深山まりて名深山乃紅葉かな　阿形氏　直詠

腹まても紅葉鮒てふつゝき錦　伊豆国　喜得

色こしやふくそ紅葉を似こそ鮒　田中氏　元真

擬鯛手秋ふりこし紅葉鮒　堺住鈴木　一圓

茎也空りし秋也唯今梅紅葉　那お　如自

木實

三寿にみな桃あるや秋三月　江戸 康友

女行にてうれしき里打つ姫く家を　大坂 利春

味もひもすひくちと香におき桃かな　伏見 平吉

うゑし家や庭巻乃出んに金庭柿　松坂住 直勝

本の実捨ふまま年の人にまつらかな　大坂 友之

なり年や門くに甲斐さちや桃　伊東氏 良里

志賀てくふや今もむかし此なり柿　姫路高井氏 元利

急かし桃もむきてハ刻まみ諸かな　江戸住 祐政

末たちとて栗切る流くや店やの山

木子

赤くなる猿猴の尾たる變桃かな　江戸中山氏 義徹

ねすまんと木ぶせる人や悪ねんか　肥後住 金門

夜人のまぼ店すいつそ志るまかな　尾州 之也

ヽれてらうなそて頭にや姫く家　伊豆古奈住 喜得

かさ砕きおく家柘榴ハ子史かな　會津 智鏡

あまりあるてをのれどうしの柿かな　進藤氏 世耻

接ぬわのそ雅るあわたる五桃かな　民部子 定重

松茸ハ力飲ニ肴處木の子かな　姫路　一イ
秋ありし松茸能津よや鎊ころ　伊賀久々布改住　久重
松茸能宮ハや作るむかうさ味噌　和刈今井　清政
松茸も三本まへくこ三笠山　新山氏市右衛門　益英
かりしあへニ鼻筋たちくや天狗茸　年寄松坂　良雅
松茸能志川音ハをある深山かな　原田氏　政持
茸狩や雨ハ梅らら松乃陰　岡氏　成遂
文人も陰まかるむや萬茸　凡松子　定重
松茸能香ふくりてまろふ花柚哉　殿村氏　敬徳
松茸とも元も山身や笠ちら茸　伏見住　友世

雜秋　付着秋

難波津に生る八芦能堀江かな　草津　重道
風のうそて乙すハ芦乃種かな　凡松子　定重
何し能種とら白くてようこそ梅かな　秋芳氏　貞就
作らる中身を流くしてもわハ白菊　松坂住　永学
呑むの心待つを残く志らか新酒かな　松坂住　交友
月久いく京菊天まおく霧乃玉　武田氏平　經經

日照りや日々川ちゝに菊作
勢州松坂 正吉

ゑるもおほ栗てゝ小家畠の都
南都住 素文

おもしろ目ふよう栗の色る追ら
播州赤穂住 長矩

紐紫ふ来とかゑてわさとや西ふ来
長持氏 政昌

武州上野旅交初秋の陸

早うちて身まかられし追善

死出乃山や行きも秋の老の坂
矢倉氏 末次

栗蒲萄て留るとふ参へやかな哉
勢州山田住 弘次

ゑもあふの究まへも行しの後
与州松山 一景

花ゝもふるやきゝき去んとちりぬの錦磨山
阿州住 末了

ふひ餅ハ実わひ数寄の料理の礼
備前岡山 我誰

戒とそたのみ寺ふもせきや方丈舎
小山氏 重高

袖乃花の市の立役者乃市の場
伊予松山 良信

ゑちくゝやそれのぞれ去年秋
肥後住 宣就

二両胡麻乃去旅や池のきてさとき
姫路三井氏 元利

世話にふ人ハとかる秋の役者ふ
武州山村 恭遠

紹れふやきふるる月ふかき去んさん
原田氏 改時

ゆかとみハ月をわや月ふ秋の新宮秋
同子 定重

秋の日は習ひよ里程九月盡

内海氏 安重

巻るていふるくれて行く九月盡

侘心子 梅盛